

**近畿地方交通審議会  
近畿船員部会議事録**

**第192回**

**令和6年9月18日**

日 時 令和6年9月18日(水) 16時00分から

場 所 近畿運輸局 会議室(船員部会室)

出席者 公益委員 横見委員、定岡委員(欠)、三輪委員、  
安達委員

労働者委員 浦委員、佐藤委員、坂上委員

使用者委員 磯合委員、土屋委員、開委員

運 輸 局 岩佐海事振興部長、三浦海事振興部次長、  
土本船員労政課長、矢野船員労政課専門官、  
衣川船員労働環境・海技資格課長(欠)

議題1. 管内の雇用等の状況について

議題2. その他

## 議 事 概 要

横見部会長：

それでは、ただ今から第192回近畿船員部会を開催いたします。

あらかじめお配りしております「第191回船員部会」の議事録につきまして、ご承認をお願いしたいと思います。ご異議ございませんか。

(異議なし)

横見部会長：

無いようですので、ご承認をいただいたものとして取り扱わせていただきます。

それでは、議題1の「管内の雇用等の状況」について、運輸局からご説明をお願いいたします。

土本船員労政課長：

それでは「令和6年8月分管内雇用状況」につきまして、ご説明させていただきます。

### 1. 職業紹介状況

#### ①求人関係

新規求人数は、57人（前月比－7人、10.9%の減、前年同月比：－27人、32.1%の減）となっています。

月間有効求人数は、166人（前月比－5人、2.9%の減、前年同月比：－53人、24.2%の減）となっています。

#### ②求職関係

新規求職者数は、10人（前月比＋1人、11.1%の増、前年同月比：－8人、44.4%の減）となっています。

月間有効求職者数は、27人（前月比増減なし、前年同月比－9人、25%の減）となっています。

### ③成立状況

当月の成立数は、4人（前月比：+3人、300%の増、前年同月比：-5人、55.6%の減）となっています。

### ④職員・部員別成立者内訳

職種別の内訳は、甲板部職員2人、機関部職員1人、甲板部部員1人、機関部部員0人、事務部部員0人となっています。

年齢別については、10歳代0人、20歳代0人、30歳代0人、40歳代0人、50歳代1人、60歳代3人、70歳代0人となっています。

## 2. 新規求人・求職者の取扱実績

### ①職種別内訳

新規求人の職種別内訳は、職員32人（甲板部19人、機関部13人、無線部0人、事務部0人）、部員25人（甲板部18人、機関部6人、無線部0人、事務部1人）となっています。

新規求職の職種別内訳は、職員6人（甲板部4人、機関部2人、無線部0人、事務部0人）、部員4人（甲板部3人、機関部0人、無線部0人、事務部1人）となっています。

### ②新規求職者の退職理由

内訳は、船舶所有者の都合が2人、定年退職0人、雇用期間満了1人、本人の申し出5人、自己の健康0人、倒産0人、就労中1人、不明1人となっています。

### ③新規求職者の年齢別

30歳未満2人、30歳代1人、40歳代3人、50歳代1人、60歳以上3人となっています。50歳以上は4人で占める割合は40.0%、30歳未満の占める割合は20.0%です。

## 3. 失業等給付金支給状況

当月末の受給資格者数は14人で、基本手当の支払実人数は3人、給付件数は4件となっています。給付金額は97,621円です。前月は1人、給付件数は2件、給付金額は246,880円でした。

それから、高年齢求職者給付金が1件329,650円、再就職手当が2件1,320,567円、就業促進定着手当が0件0円よって、当月支給額計は、1,747,838円となります。

#### 4. 月間有効求人倍率の推移

8月の近畿船員は6.15倍で、前月比-0.18ポイント、前年同月比、+0.07ポイントとなっています。

#### 5. 近畿運輸局、月間有効求人・求職状況

①月間有効求人は166人で、このうち、新規求人者数は57人となっています。

当局の紹介による求人側の成立は2人、他局成立は0名でございました。求人の取り消しは64人で、理由の内訳は有効期限切れ63人、自己応募・縁故により採用0人、会社都合により取り下げ1人、その他は0人となっています。

②月間有効求職者は27人で、前月との差は-10人でした。

当局の紹介による求職側の成立は4人、他局成立は0人でした。求職の取り消しは8人で、理由の内訳は期限切れ5人、自己応募・縁故により採用3人、自己都合により取り下げ0人、その他0人となっています。

#### 6. 全国運輸局別の有効求人、有効求職、成立数、有効求人倍率

①7月の全国の月間有効求人数は、3,233人で、前月比132人増の104.3%、前年同月比は103.2%となり、99人増加しています。

②7月の全国の月間有効求職数は、651人で、前月比31人減の95.5%、前年同月比84.4%となり、120人減少しています。

③ 7月の全国の成立数は、44人で、前月比3人減の93.6%、前年同月比では62.0%となり、27人減少しています。

④ 7月の全国船員の有効求人倍率は季節調整値により4.92倍となっています。7月の全国陸上は季節調整値により1.24倍となっています。

以上が管内の雇用等の状況でございます。

横見部会長：

ご説明ありがとうございます。

資料1、2、3について何かご質問等ございますでしょうか。

三輪委員：

資料2の7ページ月間有効求職者の失業保険受給欄が「有」になっている人の数字と、資料1の3ページ受給者一覧表のどこかの数字がリンクするものなのか、していないのか教えてください。

土本船員労政課長：

資料1の3ページの受給資格者の人数は、有効な受給資格がある方になります。給付の途中で就職したものの、再度離職した場合、最初の離職日から1年の間でしたら残りの日数の受給を再開することが可能です。よって、最長1年で数えられる受給資格者は、資料2の7ページにあります有効求職者中の受給有の人数よりも多くなっています。

三輪委員：

ありがとうございます。

横見部会長：

他に何かございますでしょうか。

無いようですので、それでは、次に議題2の「その他」に入ります。

運輸局の方から説明をお願いします。

三浦海事振興部次長：

資料4を説明申し上げます。

まず、令和6年7月分の内航海運の輸送動向調査の概要ですが、貨物船と油送船を合計した輸送量は前年同月比98%となっております。

貨物船は鉄鋼、燃料（石炭、コークス）、紙・パルプ、雑貨が増加、自動車、セメントは減少、原料は前年同月並みに推移し、油送船は高压液化以外の品目で減少となったようです。

7月の貨物船の輸送量は、前年同月比100%、前月比107%となっております。

鉄鋼は前年同月比106%であり、前月に続いて順調な輸送が継続しているようです。

原料は前年同月比100%。金属鉱、スラグ等に増加が見られた一方、石灰石は一部のセメント工場が定期修理に入ったため減少しているようです。

燃料は前年同月比111%。前年の大規模な定期修理による落ち込みもあり反動増、コークスは減少しているようですが燃料全体としては大きく増加しているようです。

紙・パルプは前年同月比121%。木材（バイオマス燃料）の受入先の定期修理が終了したことで、輸送量が回復し、全体として大きく増加がみられたようです。

雑貨は前年同月比105%で、一般雑貨が減少しているようですが、コンテナや塩の旺盛な需要に支えられたようです。

自動車は前年同月比98%で、引き続き一部メーカーのデータ試験の不備等による輸送量の減少があったようです。

セメントは前年同月比85%で、販売数量の全国的な減少が続いているようです。

続きまして、油送船の輸送量ですが、前年同月比95%で、前月比104%となっております。

黒油は前年同月比 87%で、石油火力発電所向けは需要期に入った一方で、他のエネルギー電源利用度の高まり、製油所間転送を主とした輸送が見られた結果、減少となっているようです。

白油は前年同月比 96%。ジェット燃料は安定して需要が推移している一方で、引き続き、製油所の定期修理及びトラブルにより出荷製品の少なさから出荷パターンの変更が生じて、長距離輸送が強いられ、一部ケミカル船での輸送を行っている状況となっているようです。

それでは3ページ以降、貨物ごとの状況です。7月の欄と対前月の欄をご覧ください。

鉄鋼ですが、	前年同月比で	106.2%	、対前月比は	104.2%
原料は、	前年同月比で	99.7%	、前月比では	109.8%
燃料は、	前年同月比で	110.8%	、前月比では	120.5%
紙・パルプは、	前年同月比で	120.8%	、前月比では	109.8%
雑貨は、	前年同月比で	104.5%	、前月比では	107.9%
自動車は、	前年同月比で	98.2%	、前月比では	107.4%
セメントは、	前年同月比で	84.9%	、前月比では	96.0%

貨物船全体の輸送量は、1,785万1千トンで  
前年同月比で 100.1%、前月比では 107.1%となっています。

黒油（こくゆ）は、前年同月比で 86.7%、前月比では 106.7%  
白油（はくゆ）は、前年同月比で 96.1%、前月比では 99.1%  
ケミカルは、前年同月比で 95.7%、前月比では 114.3%  
一般タンカーの輸送量は、734万5千トンで  
前年同月比で 93.5%、前月比では 102.2%となっています。

続きまして、

高圧液化は、	前年同月比で	116.6%	、前月比では	125.8%
高温液体は、	前年同月比で	93.1%	、前月比では	103.3%



耐腐食は、前年同月比で 91.9%、前月比では 106.1%  
特タン船の輸送量は、100万トンで  
前年同月比で 103.4%、前月比では 115.2%となっており、  
全てのタンカーの合計は、834万5千トンで  
前年同月比で 94.6%、前月比では 103.6%となっています。

次に資料5、令和6年7月における長距離フェリーの輸送実績でございます。

7月の欄と、右のほうの対前月、対前年同月比のところをご覧ください。  
まずは「トラック」ですが、

北海道方面では、13,220台で、前月比 118.6%、前年同月比  
102.2

北九州方面では、35,967台で、前月比 106.4%、前年同月比  
108.5%

中九州方面では、12,334台で、前月比 110.1%、前年同月比  
120.6%

南九州方面では、11,893台で、前月比 104.6%、前年同月比  
112.7%となっています。

次のページの「旅客」では、

北海道方面では、

21,847人で、前月比 132.1%、前年同月比 87.3%

北九州方面では、

80,372人で、前月比 118.6%、前年同月比 102.2%

中九州方面では、

33,342人で、前月比 120.9%、前年同月比 117.9%

南九州方面では、

25,474人で、前月比 146.8%、前年同月比 115.6%  
となっています。

最後に、次のページの「乗用車」では、  
北海道方面では、

7, 747台で、前月比 120.0%、前年同月比 100.8%

北九州方面では、

22, 969台で、前月比 117.4%、前年同月比 101.1%

中九州方面では、

4, 469台で、前月比 118.6%、前年同月比 102.2%

南九州方面では、

7, 199台で、前月比 121.8%、前年同月比 106.1%

となっています。

トラック、旅客、乗用車の輸送実績は、北海道方面のトラックの輸送台数が「対前年同月」の比で減少しているが、その他はすべて「対前月」「対前年同月」とともに100%を超えている状況が見受けられます。

資料5の説明は以上でございます。

続きまして、参考添付として、8月28日に、海事局内航課において、中・長距離フェリー、RORO船に係る積載率の動向について、令和6年4月～6月の実績を調査したものが公表されましたので、ご報告します。

私からの説明・報告は以上です。

横見部会長：

ありがとうございました。

それでは、資料4、5について何かご質問等ございますでしょうか。

佐藤委員：

資料4の2ページ、油送船の概要のところ、黒油部分の「製油所間転送を主とした輸送が見られた結果、減少となっている。」とありますが、製油所間転送は輸送量に含まれないのでしょうか。

浦委員：

出典元の内航総連に確認してみればわかるかと思います。

三浦海事振興部次長：

確認します。

横見部会長：

ありがとうございます。

他に何かございますでしょうか。

横見部会長：

それでは、次に、船員政策や船員労働全般に関わる様々な問題について、ご意見や情報などございましたらご発言をお願いいたします。

では、まず労働者委員のほうから何かございますでしょうか。

横見部会長：

それでは、使用者委員の方からいかがでしょうか。

横見部会長：

そのほか、公益委員の方からいかがでしょうか。  
よろしいでしょうか。

横見部会長：

そのほか、事務局からいかがでしょうか。

横見部会長：

それでは本日の部会は終了いたします。

次回は10月23日（水）16時00分からとなっておりますので、皆様  
よろしくをお願いいたします。

(配付資料)

資料 1. 令和 6 年 8 月分 近畿運輸局管内船員職業紹介実績表

資料 2. 令和 6 年 8 月分 月間有効求人・求職状況（近畿管内）

資料 3. 令和 6 年 7 月分 局別月間有効求人数（商漁船・職部員別）等

資料 4. 内航輸送実績状況（令和 6 年 7 月分まで）

資料 5. 長距離フェリー輸送実績の推移（令和 6 年 7 月まで）

(参考資料：中・長距離フェリー、RORO 船及びコンテナ船に係る積載率動向について)